



総合型選抜の提出書類を0から書くための、完成した例文集です。自分の状況に近い例文を選び、「書き換えるときに変える場所」に沿って自分の言葉に置き換えると、下書きが今日中に形になります。丸写しではなく、構造を借りて中身を自分のものにする使い方を想定しています。

この資料の使い方

1. 自分が書く書類の種類(レポート・エントリーシート・探究学習の説明)を選びます
2. 近い例文を読み、「この例文のどこが効いているか」を確認します
3. 「書き換えるときに変える場所」に沿って、自分の経験・数値に置き換えます
4. 書き終えたら「提出前セルフチェック欄」で確認します

レポート形式の例文(400字)

私は住んでいる地域の商店街で空き店舗が増えている理由をレポートにまとめました。通学路にある商店街のシャッターが年々増えていることに気づいたのがきっかけです。市が公開している統計を確認すると、この10年で空き店舗率が上昇していることが分かりました。近隣の店主数人に話を聞いたところ、後継者不足と客足の減少が重なっている状況が見えてきました。一方で、若い世代が新しく飲食店を開いている例もあり、単純な衰退とは言い切れない面もあります。開業した店主に話を聞くと、家賃の安さと駅からの近さを理由に挙げており、条件次第で出店を選ぶ人がいることも分かりました。今回の調査を通じて、地域の課題は一つの原因ではなく複数の要因が絡み合っていることを学びました。今後は、空き店舗を活用している他地域の取り組みを調べ、自分の地域に応用できる形を考えていきたいと考えています。

****この例文のどこが効いているか****

- ・ きっかけ→調査方法→結果→気づきの順に並んでおり、話の筋を追やすい
- ・ 「市の統計」「店主への聞き取り」など、根拠の種類を書き分けている
- ・ 一方的な結論にせず、例外(新しく開業した飲食店の例)にも触れている

****書き換えるときに変える場所****

- ・ テーマ(空き店舗→自分が調べた地域課題)
- ・ 調査方法(統計・聞き取りの内容を、自分が実際に確認したものに差し替える)
- ・ 「今後は～」の一文を、自分が次に調べたいことに書き換える

レポート形式の例文(800字)

探究学習のテーマとして、学校の食堂で発生する食品ロスを取り上げました。きっかけは、昼休みに食堂の返却口で残された料理を見かける機会が多かったことです。全校生徒へのアンケートを実施したところ、「食べきれずに残した経験がある」と答えた生徒が半数を超えていることが分かりました。残す理由として最も多かったのは「量が多い」で、次いで「時間が足りない」でした。この結果を受けて、量を選べる仕組みがあれば残食が減るのではないかという仮説を立てました。検証のため、食堂の協力を得て2週間、通常盛りと少なめ盛りを選べる期間を設け、残食量の変化を記録しました。記録は、返却された食器の残量を写真で残し、後から見た目の分量を3段階で評価す

る方法をとりました。集計は、盛り付けの種類ごとに残食量の平均を出し、週ごとの推移を折れ線でまとめました。結果として、少なめ盛りを選んだ生徒の残食量は通常盛りの生徒より少なくなりました。選択制を導入した週全体の残食量も、それ以前の週と比べて減少していました。ただし、記録した期間が2週間と短く、天候や献立による影響を切り分けられていない点は課題として残りました。また、少なめ盛りを選んだ生徒の中には、「量を減らした分、後で間食が増えた」と答えた人もいました。量を減らすことが満足度の向上につながるとは限らないことも見えてきました。この探究を通じて、一つの施策の効果を測るには、比較対象と期間の設計が結果の解釈を左右することを学びました。効果があるように見えても、測り方が変われば違う結論になり得る点は、今後の調査でも意識したいと考えています。今後は、記録期間を延ばし、献立の種類による違いも合わせて調べることで、より確からしい結論に近づけたいと考えています。

****この例文のどこが効いているか****

- ・ 仮説→検証方法→結果→限界の順で書かれており、探究のプロセスが伝わる
- ・ 数値だけでなく「間食が増えた」という反証的な情報も書いており、公平な見方を示している
- ・ 「今後は～」で次の課題を具体的に示し、探究が続いていることを伝えている

****書き換えるときに変える場所****

- ・ テーマ・仮説(食品ロス→自分が調べたテーマ)
- ・ 検証方法と期間(自分が実際に行った調査の設計に置き換える)
- ・ 「課題として残った点」を、自分の調査で実際に感じた限界に書き換える

エントリーシートの記入例

志望理由欄の記入例(300字)

私が〇〇大学経済学部を志望する理由は、地域経済の課題を、データを使って考える力を身につけたいからです。高校の探究学習で、地元商店街の空き店舗問題を調べました。その際、統計だけでは見えない部分が聞き取り調査で分かることを経験しました。貴学部の授業紹介で、統計分析と現地調査を組み合わせる科目があることを知り、高校での調査をより深めて学べると考えました。入学後は、地域経済のデータ分析を扱うゼミに所属し、高校での探究を発展させた研究に取り組みたいと考えています。

****この例文のどこが効いているか****

- ・ 志望理由の根拠を、探究学習の具体的な経験(商店街の調査)に結びつけている
- ・ 「学部で学べること」と「自分がすでにやってきたこと」を接続し、入学後の学びにつなげている
- ・ 抽象的な意欲だけでなく、入学後にしたい取り組みを一文で示している

****書き換えるときに変える場所****

- ・ 学部・分野(経済学部→自分の志望する分野)
- ・ 探究学習の内容(商店街の調査→自分の探究テーマ)
- ・ 「貴学部の～」の部分で、自分が調べた大学の授業やゼミの情報に差し替える

これまで力を入れてきたことの記入例(300字)

高校2年から3年にかけて、探究学習で地元商店街の空き店舗問題に取り組みました。最初はアンケートの回答数が少なく、思うようなデータが集まりませんでした。そこで、通学路の店舗に直接依頼し、聞き取りの時間を確保し

てもらう形に切り替えたところ、回答数を増やすことができました。この経験から、計画通りに進まないときほど、方法自体を見直すことが必要だと学びました。この学び方は、大学での研究にも活かせると考えています。

****この例文のどこが効いているか****

- ・ 困難(データが集まらない)→対応(方法の変更)→結果の順で、行動の再現性が伝わる
- ・ 成果を誇張せず、「回答数を増やせた」という確認できる変化にとどめている
- ・ 学びを大学での学びにつなげる一文で締めている

****書き換えるときに変える場所****

- ・ 取り組みの内容(探究学習→自分が力を入れたこと)
- ・ 困難だった点と、それにどう対応したかの具体的な行動
- ・ 最後の一文を、自分の志望分野に合わせて書き換える

探究学習の取り組みを書いた例文

探究学習では、当初「なぜ空き店舗が増えるのか」という問いを立てましたが、調べる中で対象が広すぎることに気づきました。そこで、通学路にある商店街1本に絞り、空き店舗になった時期と業種を記録することから始めました。市の統計と現地の聞き取りを組み合わせると、業種によって空き店舗になるまでの期間に差があることが分かりました。特に、後継者を必要とする業種ほど空き店舗になりやすい傾向が見えてきました。この結果を受けて、問いを調整しました。「空き店舗を減らすには何が必要か」から、「後継者不足が起きやすい業種にはどんな支援が向いているか」への調整です。当初の問いのままでは検証できなかった部分を、調べながら絞り込んでいく過程が、この探究の中心になったと考えています。

****この例文のどこが効いているか****

- ・ 最初の問いが広すぎたことを隠さずに書き、問いを絞り込んだ過程を示している
- ・ 「業種による差」という具体的な発見を、調査方法(統計+聞き取り)とセットで示している
- ・ 結論ではなく「問いの調整」で終えており、探究の途中経過として誠実な書き方になっている

****書き換えるときに変える場所****

- ・ 最初に立てた問いと、それが広すぎた理由
- ・ 絞り込んだ後の対象と、調べる中で分かった具体的な差
- ・ 「問いを～へと調整しました」の部分を、自分の探究で実際に変わった問いに書き換える

減点されがちなNG例と直し方

****NG**:**「私はリーダーシップがあると思います」(根拠のない自己評価)

****直し方**:**「文化祭で進行が遅れた際、役割分担を再整理して当日中に立て直しました」のように、行動で示す

****NG**:** AIに要約してもらった文章をそのまま貼り付けている

****直し方**:** AIの出力を読んで自分が納得した部分だけを選び、自分の言い方で書き直す

****NG**:** 「～だと思います」を多用し、根拠が本人の感覚だけになっている

****直し方**:** 感覚を書いた後に、その根拠となった数字や出来事を一つ添える

****NG**:** 「このテーマは絶対に社会に必要だと思います」のように言い切っている

****直し方**:**「このテーマは～という点で必要性があると考えています」のように、根拠とセットで一段階弱める

****NG**:** 探究のきっかけから結論までを一つの段落に詰め込んでいる

****直し方**:** きっかけ・方法・結果・気づきを段落ごとに分け、一文を60字程度までに区切る

提出前セルフチェック欄

- ☐ 募集要項に記載された指定字数の範囲(上限・下限の両方)に収まっているか
- ☐ 誤字脱字がないか(一度、音読して確認する)
- ☐ 一文が長くなりすぎていないか(60字を超えたら分割を検討する)
- ☐ 「絶対」「必ず」などの言い切りが、根拠なく使われていないか
- ☐ 抽象的な自己評価だけで終わっていないか(行動や数字で示しているか)
- ☐ 志望理由と、これまでの取り組みがつながっているか
- ☐ AIの出力をそのまま使っている箇所が残っていないか
- ☐ 書いた体験が、実際にあった出来事の範囲に収まっているか(誇張や創作がないか)
- ☐ 提出先(学校・学部)ごとの募集要項・様式を、最新のものと照らし合わせたか